

2016 MITSUBISHI CUP 関東連盟夏季大会

◇5月22日～7月3日◇藤代球場ほか◇出場204チーム



「MEIKO CUP」リトルシニア夏季大会が、大詰めを迎え、日本選手権(7月31日～8月4日)の出場チームが決定した。5回戦を勝ち上がった8チームと、5回戦で敗れたチームによる敗者復活戦の勝者4チームの計12チームが真夏の決戦に進んだ。決勝は川口・佐倉、3位決定戦は江戸川中央・横浜緑の対戦。準決勝では川口が、江戸川中央の攻撃を再三の好守でしのぎ、4-3で勝利。投手戦となった佐倉・横浜緑戦は、佐倉が6回に伊達幸紀(3年)の2点本塁打などで勝ち越し、4-1で振り切った。

シニア情報 関東連盟

毎月第1、3水曜掲載

堅守で魅せた川口 劇的ダブルプレー 川口の堅い守りの前に、江戸川中央には本塁打が遠かった。序盤に3点ずつを取り合った後、ピンチとチャンスが交錯。同点の6回表、川口

日本選手権出場12チーム決まる

佐倉・伊達が豪快決勝2ラン 豪快なひと振りが試合格。どんぶり飯4杯を食を決めた。1-1で迎えた6回裏、佐倉は先頭の度会(わたらい)隆輝(2年)が中前打で出塁。6番伊達は「初球からいけ」と言われていた。打った瞬間、行ったと思った。手応え十分な打球は左翼フェンスを高くと越える決勝ランとなり横浜緑を振り切った。177センチ、90センチの体



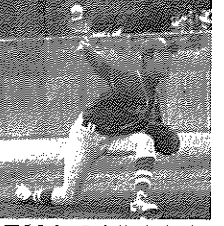
決勝本塁打を放った佐倉・伊達

- 倉口中央 緑 瑤 中野 名尾 市部 西
佐川 江 戸 川 中
横 浜 府 下
匝 武 蔵 木 老 葉
栃 海 上 千 友 世
真夏の決戦に挑む12チーム



7回表、江戸川中央は同点の走者が本塁で刺され試合終了

で捕手のミットに収まった。相馬健二監督は「打撃のチームと思っんですけど今回は守備がはまった。子供たちの自信なんですかねえ」と笑った。川田鏡哉主将(3年)は「シートノックで中継プレーをしっかりとやってきたのが良かった。つなぐ野球ができて」と胸を張った。



7試合で4失点と力投した横浜緑・筒井

6試合投げ抜く 横浜緑 「ここまで来られて上出来」と、筒井敬一監督。立役者はエース筒井颯太(3年)だった。準々決勝まで6試合を一人で投げ抜き3失点。連投の準決勝は規定で3回までで降板し「優勝したかった。初回の1失点があれば(結果は)変わったかも」と無念そうだった。

闘いを控えて

力を出し切る 栃木下野 準々決勝で横浜緑の筒井に完封負けを喫した。阿久津悠監督は「打ち切れないことが多かった。日本選手権は楽しみたい」と話した。柴原太一主将(3年)は「チーム最高のベスト8を超えられるよう戦いたい。3年間やり切ったと思えるように力を出し切りたい」と意気込んだ。

持ち味は粘り

海老名 強豪佐倉に準々決勝で逆転負け。「日本選手権を決め、少し気が緩んだのかも」と鶴沢悠生主将(3年)はちよつと反省。4年ぶりの全国に飯塚良二監督は「それほど打てないのであきらめずに守っていい」と言う。鶴沢主将も「持ち味は粘り。我慢強く戦いたい」と話した。

1本が出なかった

江戸川中央 11安打を放ち、再三チャンスを作ったが川口の好守に決勝進出を阻まれた。厩代剛一監督は「川口さんにすく守られた。しのがれた感じです」。天野海斗主将(3年)は「チャンスに1本が出なかった」と悔しそうだった。

- 上 尾21 練馬
【Bブロック】
江戸川中央 6-3 町成
武蔵府中 7-0 中野
千葉市 8-1 佐野
【Cブロック】
栃木下野 3-0 瀬谷
浦安 8-0 熊谷
友部 9-7 中本
横浜緑 1-0 逗子
【Dブロック】
世田谷西 9-0 浜松
海老名 5-3 千葉北
佐倉 8-1 青葉緑東
取手 5-1 東京神宮
▽5回戦(6月19日)
【Aブロック】
川口 8-6 横浜泉
匝 5-2 上野
【Bブロック】
江戸川中央 17-0 成市
武蔵府中 6-2 千葉
【Cブロック】
栃木下野 13-3 浦安
横浜緑 3-1 友部
【Dブロック】
海老名 3-2 世田谷西
佐倉 5-0 取手
▽準々決勝(6月25日)
川口 6-0 匝
江戸川中央 5-2 武蔵府中
横浜緑 2-0 栃木下野
佐倉 2-1 海老名
▽敗者復活戦(同)
上野 10-2 横浜泉
千葉市 9-2 浦安
友部 2-1 浦安
世田谷西 1-0 取手
▽準決勝(6月26日)
川口 4-3 江戸川中央
倉 4-1 横浜緑

集中してプレー

匠瑤 川口に敗れて8強止まりも、越川康弘監督は「エース及川(雅貴、3年)を中心に粘り強く戦った」とほめた。及川がU-15代表に選出され、日本選手権では不在となる。田中孝典主将(3年)は「打撃も守備も集中してプレーし、1つでも多く勝ち抜くのが目標です」と意欲をみせた。

3年連続決めた

武蔵府中 準々決勝で江戸川中央に屈したが、小泉隆幸監督は「苦しい試合もあったが、3年連続日本選手権を決めたよかった」と話した。チームカプラーは全員野球。片山啓主将(3年)は「日本一を目指してきた。改めてみんなで、その気持ちを確かめて日本選手権に臨みたい」と話した。